アリババと 40人 とうぞく

福娘童話集 せかいの民間昔話より

アリババ Q&A

おうさま

福娘童話集 安本シリーズ 28

福娘童話集
・366日への旅
(誕生日・誕生花・誕生日)
・こどもの帰宅相談所
(こどもの帰宅確認・対応など)
・世界60秒めぐり
(世界の国々の空気調)
Q&A
http://hukumusume.com

福娘の携帯向けサイト
・もちぶたこう　・つるのおんがえし　・かちかちやま
・ブレーメンのおんがくたい　・赤ずきんちゃん　・おにくいやしのコブ
・シンデレラ　・ウンディーネの宝の木　・にんぎょひめ
・花咲じいさん　・おやゆびひめ　・花のあじいさん
・金太郎　・シンデレラ　・はだかの王さま
・浦島太郎　・ひらやまひめ　・ハクロのおはなさかじい
・かさじぞう　・マッチ売りの少女　・ヘンゼルとグレーテル
・ワルツにプシだん　・スズランとエンマン　・アリババと40人の盗賊
・いっすんぼうし　・プルートの冒険　・ウサギとカメ
・しぶきじろとスズメ　・眠れる森の美女　・北風と太陽

おかしおかつ、ペルシアに、カシムと アリババと いう きょうだいが いました。
あには カシムは たいそう おかねもちで、おとうとの アリババは びんぼうな きこりでした。
ある日、アリババが ロバを つれて 森へ いくと、たくさんの こまものあつめと きこりをしました。
見ると、うまに のった 男たちが ちかづいてきます。
(おとろしいかおを している。きっと、わるいやつらに ちがいない)
アリババは ロバを つれて、あれとも ものかげに かくれました。
そっと かどえると、男たちは 40人います。
やがて おやかだが、いわの まえに たつと いいました。
「ひらけ、ゴマー」
すると、いわが スーと ひらいたのです。

男たちは ほらあなの 中に 入ると、もっていた にもつを おろして、また 出てきました。
「どこの、ゴマー」
おやかだが さけぶと、いわは スーと、とじました。
男たちは、うまに のると はしりさっていきました。
「これは すごい、まほうの じゅもんと いわが うごくんだ」
アリババは、さっそく まねを してみました。
「ひらけ、ゴマー」

さっきと おなじように、いわが スーと、ひらきました。
ほらあなに 入った アリババは、目を 見はりました。
「これは すごい！ たからの 山だ！ そうだ、ここは とうぞくたちの たからの かくしばしょ なんだ」
アリババは きんかを ロバに つむと、いそいで いえに かえりました。
そのあと、アリババは、カシムの いえに マスを かりに いきました。
(ごんぼうにんが、なにを はかるのだろう？)
そうおもった カシムは、マスの すみっこに、つめそうと のりを ぬっておきました。
そして、アリババから かえってきた マスには、のりに くっついた きんかが 一まい ねっついていたのです。
カシムは、すぐに アリババの いえに いきました。
「おい、このきんかを どこで 手に 入れたんだ！ いわないと、やくにんに いいつけるぞ！」
つかたなく、アリババは、たからの ありかを おしえました。
(これは いいことを きいた。よし、そのたからを ひとりじめに しよう)
やくにん

カシムは、すぐに ロバを つれて、たからの ありかに いきました。
そして、いわの まえに たつと、
「ひらけ、ゴマー」
いわが スーと ひらきました。
カシムは、ほらあなに 入ると、たからの 山を 見て、
「すごい、すごい、これは すごい」
と、よろこんで、
「ひらけ、ゴマー」
と、いいましたが、いわは、とじたままです。
「ひらけ、ゴマー、ひらけ、ゴマー」
いくら いっても、いわは、とじたままです。
カシムは、どうして いわが ひらかないのか、わかりません。
そのうち、ほらあなに、ほかの どうぞくたちが、もどって きました。
「ひらけ、ゴマー」
と、いうと、いわが スーと ひらきました。
どうぞくたちは、カシムを みつけると、

「おのれ、ぬすっとめ！」
と、いって、カシムを つかまえました。
カシムは、
「ゆるして ください。ゆるして ください」
と、あやまりましたが、どうぞくたちは、カシムを ころして しまいました。
アリババは、カシムの したいを ひきとって、ていねいに ほうむりました。
そして、カシムの つまと いえを ひきとって、いっしょに くらすように なりました。
アリババは、たからの ありかを だれにも いいませんでした。
ときどき、ロバに のって、たからの ありかに いって、たからを もって かえりました。
アリババは、たからを うって、しょうばいを はじめました。
アリババは、どんどん ゆたかに なりました。
アリババは、カシムの むすこに、むすめを よめに やりました。
アリババは、ながく しあわせに くらしました。

おしまい。